

2025年8月

編集長：中里美郷



## 目次

第4回総会報告 記念講演&リレートーク  
「おしゃべりな羊たちの運動会」の紹介  
若造フォーラム開催  
参院選候補者アンケート結果

ノーモアヒバクシャ・  
記憶遺産を継承する会

2011年12月10日、大江健三郎氏らの呼びかけで設立。被爆者が経験し記録した証言・資料を集め、体系的に整理・保存・普及・活用することを目的に活動しています。

被爆者の高齢化が進み、証言の風化が懸念されるなか、彼らの体験や思いを記憶遺産として未来に継承することは、核兵器を二度と使わせない社会を築くための重要な役割を担っており、被団協のノーベル平和賞授賞式での田中照己さんのスピーチでも紹介されました。

主な取り組みとして、資料収集・整理、被爆体験の手記や証言録、調査・研究資料、文学・芸術資料などを体系的に取りまとめ、その内容を随時公開しています。被爆者の証言を子どもや一般市民に届けるイベント（「ヒバクシャと出会うカフェ」「子ども記者企画」など）を開催。書籍や文献をデジタル化し、オンライン公開をめざす。全国の証言をまとめた“全国証言マップ”の展開を進行中。

現在、被爆関連の記録を保存・展示・公開する拠点として「継承センター」を構想し、設立に向けた募金活動（目標6億円）を推進中！

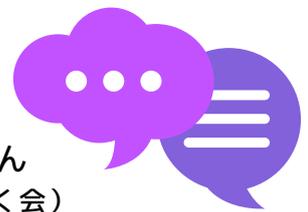
第4回定期総会開催！  
記念講演に栗原淑江さん

4月29日(火・祝)、松本市勤労者福祉センターにて、長野反核医療者の会第4回定期総会・記念講演を行いました。

記念講演の講師は、栗原淑江さん（NPO法人ノーモアヒバクシャ・記憶遺産を継承する会）にお越しいただき、「日本被団協とともに歩んで ふたたび被爆者をつくらないために」と題してご講演いただきました。講演後はリレートーク。長野県原爆被害者の会（長友会）の前座明司さん、平和の種をまく会の小田登茂子さん、ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクトの近藤拓也さんらに登壇いただき、当会メンバーも交えて核兵器廃絶への思いを語り合いました。会場とオンライン合わせて70人の方にご参加いただきました。



# 反核・平和の思いをつなぐリレートーク



## 前座明司さん

(長野県原爆被害者の会(長友会)  
副会長 被爆2世)

1月の田中熙巳さん講演会に500人が参加。父・良明さんの信念は「平和はたたかいとるもの」。1973年に被爆者が厚生省前で座り込み暖を取った七輪が保存されているそうです。長友会への協力も呼びかけられました。



## 小田登茂子さん

(平和の種をまく会)

「平和を願い、平和を語り、平和のために力を合わせる」を活動のテーマにニュースレター「平和の種」を発行。前座良明さんから生前に語ってもらった壮絶な被爆体験と日本の戦争加害、平和への思いをお話いただきました。

## 近藤拓也さん

(ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクト)

長野県で中学校の数学の教員をしており、被爆80年に向けて、2024年からプロジェクトを立ち上げ。県内の被爆者の方の証言聞き取りと、小中高校に配布する冊子作りを進めている経験についてお話いただきました。



## 河野絵理子さん

(長野反核医療者の会 医師)

2022年に長野反核医療者の会の立ち上げ。被爆者の高齢化で介護が必要だが補償不足で介護難民に。被爆者医療の継承も課題になっています。核廃絶と一緒に訴える仲間を広げていきたいと語りました。



## 松久凌大さん

(反核医師の会 学生会事務局長)

反核・平和に興味のある学生たちでフィールドワークや学習を実施。反戦反核運動が盛り上がる一方、核依存にぶれつつある現代社会において、そのギャップをいろんな分野・人々との懸け橋になって解消していきたいという思いを語っていただきました。



## 木下真理子さん

(長野反核医療者の会 共同代表)

高齢化が進む地域で在宅医療を行う中で、戦争の記憶に苦しむ患者さんと出会い、戦争の傷跡の深さを痛感するそうです。戦争が起きたり、核兵器が使われれば、「自分らしい最期」や命を支える医療は不可能になるということをお話いただきました。

## “NIHON HIDANKYO” とともに歩んで ふたたび被爆者をつくらないために — 「戦後」80年私達の課題 —

総会に参加した当会メンバーの師岡美紀さん(上田生協診療所看護師)に感想を寄稿してもらいました。

NPO法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会事務局長の栗原淑江さんのお話は、とても興味深いものでした。ヒバクシャ対策の基本理念をめぐる、当時の厚生大臣が設置した会の意見には、『およそ戦争という国の存亡をかけての非常事態のもとにおいては、国民がその生命・身体・財産等について、・・・何らかの犠牲を余儀なくされたとしても、それは国を挙げての戦争による「一般の犠牲」として、全ての国民が等しく受忍しなければならない・・・』と言う「受忍」論。原爆地獄での死も、ヒバクシャとしての苦難に満ちた生も国は保障せず、「受忍」(がまん)すべき。しかもそれは、「およそ」という過去の戦争に限らず、例外のない原則として意見が述べられていた事を知りました。人の命を余りに軽々しく考えていると、怒りを覚えました。同時に、こんな風に考える人達では、またいつか戦争を起こすのではないかと不安な気持ちにもなりました。

ヒバクシャは辛かった自ら被爆体験を語り、再び繰り返さない為にと、立ち上がり運動してきました。日本被団協のその凄さを改めて感じました。講演の中で何度か出た「継承」。今度はこのヒバクシャの記憶や思いを、今を生きる者が受け継ぎ、子供や孫、未来に引き継ぐ役割があります。私自身もその一人でありたいと思います。

今回の総会は、若者の参加が多く、未来を感じる明るい会でした。来年は職場から複数で参加出来るように、声をかけていきたいと思っています。

# 決定！今期の活動方針の紹介 「おしゃべりな羊たちの運動会」

前号の会報No.9でコミュニティ・オーガナイズの報告・実践会の記事を掲載しました。定期総会では毎年、次の1年間の活動方針を発表していますが、今年はコミュニティ・オーガナイズの手法を使ってみんな考えたチームと作戦で活動していく予定です！

私たちが立ち上げたチーム名は・・・

## 「おしゃべりな羊たちの運動会」

羊たち：「眠り」「平和」をイメージする動物

運動会：反核「運動」、楽しさ、誰でも参加できる、得意分野を活かせる、応援しあう、地域でつながる

私たちは2025年1月に、初の集合会議を松本で行いました。コミュニティ・オーガナイズのエッセンスを取り入れて、長野反核医療者の会の活動をより練り上げるためです。参加者8名で、私たちが、なぜ核廃絶の運動に取り組んでいるのか、一致する思いや価値観は何かを話し合い、「私たちはどんな社会を実現したいのか」を考えました。

“安心して眠ることができる社会にしたいね”

この言葉に、参加者全員が強く頷いていたのが印象的です。核兵器に脅かされることがない社会は、誰もが安心して眠れる社会。その社会を実現するために、まず達成したいことは【長野県民（長野県内の医療者）が長野反核医療者の会の名前を知っている】状況を作ることです。これまで多くの会員のみなさんに支えて頂き、第4回の定期総会を迎えることができました。私たちのことをより知ってもらうために、会のみなさんが持っている繋がりや知識も活かして活動を展開していきます。



「わたしたちはどんな社会を実現したいのか？」  
⇒核兵器に脅かされることなく  
“安心して眠ることができる社会”

私たちは、【おしゃべりな羊たちの運動会】というチームを立ち上げました。羊は平和な暮らしの象徴とされています。そんな羊たちが集まる運動会。どんなイメージでしょうか。運動会という言葉には、「楽しさ」「誰もが参加できるもの」「得意分野を活かせること」「みんなと同じことに取り組む」「応援しあう」「地域でつながる」「運動した後はよく眠れる」という意味を込めています。走り回って（県内いろいろな場所へ出向いて）あらゆる戦後80年企画に顔を出しながら、活動を広めていきます。

この数年間で、核兵器を取り巻く環境は大きく変わりました。市民社会が中心となり、核兵器禁止条約が発効されました。日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。市民社会の動きに国際的にも大きな注目が集まっています。核廃絶に向けて、皆さんと運動会を作り上げていきたいです。（丸橋郁弥：事務局メンバー）

### ◆◆活動方針アクションプラン◆◆

県内いろいろな場所へ出向いて、あらゆる戦後80年企画に顔を出しながら、活動を広めていきます！

## コミュニティ・ オーガナイズ

【コミュニティオーガナイズとは】  
・市民や地域の人々が自らの力で社会課題を解決するために集まり、行動を起こすプロセスや手法

【プロセスの概要】

- ①私たちはなにをしたいのか  
個人の関心や経験を起点に、対話を通じて信頼関係を築く
- ②チームの自己紹介  
共通の目的、仲間、活動を重ねてチームの紹介をする
- ③目的の達成のために  
どんな人たちが関わることになるのか確認してキャンペーンをつくる
- ④キャンペーンの自己紹介  
キャンペーンの説得力を確認して具体化する
- ⑤ゴール達成のために  
逆算してイベントを考え、キックオフ会をイメージする



↑みんなでチームと活動について考えている様子



イメージ図・・・？

# 若造フォーラムが開催されました

7月5日（土）に、「信州の若者がつむぐ平和創造フォーラム（略して若造フォーラム）」が行われました。

当会の事務局メンバーのうち何人かは、松本強制労働調査団にも所属しています。それぞれの活動を通して、核廃絶と日本の加害責任を認めることは、平和な社会を目指すための両輪の取り組みであると考えようになりました。また、「ヒバクシャの願いをつなぐプロジェクト」への参加を通して、学校の先生たちとも平和への思いを共有する機会が増えてきました。そうした中で、「長野県内には平和について取り組む若者がたくさんいる！みんなで交流したい」と考えるようになり、フォーラムを行うことになりました。

沖縄、パレスチナ、満蒙開拓など、別々の地域・時代の出来事も、植民地主義といった共通点があります。それぞれが学んでいることを交流して、お互いが元気になれるような企画になりました。私たち一人ひとりが、「自分ごと」として取り組んでいることを、多くの人に知ってもらえて嬉しかったです。

（河野絵理子：事務局メンバー）



## 核兵器についての候補者アンケート実施！ 2名から回答がありました

スペースの関係で要約した回答を掲載していますが、全文はHPでご覧いただけます！

7/20(日)投開票で行われた参議院議員選挙で、長野県選挙区の候補者に核政策に関するアンケートを行い、羽田次郎さん（立憲民主党・現）、竹下博善さん（参政党・新）2名の候補者から回答を得ることでできました。



問1、日本は核兵器禁止条約に批准すべきだと思いますか。



はい 被爆国として核廃絶を主導し、国際社会で責任を果たすべき



いいえ 理想ではなく現実を見据え、抑止力ある国防戦略が必要

問2、日本は核兵器禁止条約締約国会議にオブザーバー参加すべきだと思いますか。



はい 被爆国として条約会議へのオブザーバー参加は矛盾しない



はい 被爆国として対話に関与し橋渡しの役割を果たすべき

問3、日本被団協の田中熙巳さんがノーベル平和賞の授賞式で、「日本政府は一貫して国家補償を拒んでいる」との発言をされました。あなたの考えは以下のどれに近いですか。

- ①日本政府として戦争責任を認め、被爆者・戦争被害者へ国家補償の道を開くのが良い
- ②日本政府として戦争責任は認めず、今のままの社会保障制度の範囲の援護法で良い
- ③その他



③その他 戦争の歴史に向き合い、多様な意見を尊重し平和を目指す



③その他 戦争被害者への思いを重視しつつ、国家補償は複雑で支援を重視

問4、日本は米国の核抑止力に依存していますが、核兵器は安全の脅威であり被爆者の思いに反するとの意見もあります。あなたの考えは？

- ①米国と緊密に連携し「核抑止力」をさらに強化すべき
- ②米国への依存を減らし、周辺諸国との紛争を予防する外交に力を入れるべき
- ③米国に依存せず独自の防衛力を強化すべき
- ④その他



④その他 被爆国の道義性で核対話を主導し、段階的軍縮を進めるべき



③独自防衛 米依存脱却し技術と防衛強化で自立的安全保障を築くべき